令和５年度　常葉大学教育学部附属橘小学校　学校評価書

学校教育目標　　「生きる力を互いに高めあう児童の育成～三方よしの実践を通して～

本校の学校評価の項目
1　重点目標に関すること
2　指導部に関すること
3　特色ある教育に関すること
4　その他の重点項目について

1　重点目標に関すること　　５：大変よくできた　４：よくできた　３：できた　２：あまりできなかった　１：大変できなかった

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>自己評価</th><th>学校関係者評価</th><th>学校関係者委員会の意見</th></tr>
<tr><td rowspan="6">重点目標

（林）
（山本祐）
（二村）</td><td>☆　確かな学力　（林）
・基礎的な知識・技能を身に付けた児童
・思考力・判断力・表現力等の能力を付けた児童
・主体的に学習に取り組む態度が身に付いた児童</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・橘小学校のよさの1つに、1年次からの学習習慣の徹底がある。主体的に学ぶ態度を高めるためには、その前提となる基礎学力や学びに向かう意欲を高めてあげることが必要だ。教員が教えすぎないことも必要で、子ども同士の学び合いがもっと進むことを期待する。
・全国学調の結果に表れているように、本来持っている子供たちの能力を引き出し、高めることができているのではないかと思う。「主体的」が課題であるとの振り返りだが、子供たちが解決したくなる課題設定と個別探求的な学びの場を充実させていくことが求められているのかもしれない。
・落ち着いた学習環境の中、学びに向かっている様子が見られた。学力テストの結果からも学力の高さが評価できた。
・主体的に取り組む（学びに向かう力）は、幼児教育から中等教育まで貫く大切な要素である。今後も探究型の授業の質を高め、主体性を育んでほしい。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
・教えるべきは教え、活動すべきときにはたっぷりと時間を確保することで、子供の意欲や興味・関心を引き出し、学力を高めることができたが、「主体的」という点において課題が残った。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・探究（問題解決）型の授業の質を高め、子供の「主体性」を高める。
・特に配慮を要する児童に対して、担任・担当・管理職・外部組織が連携して動けるような組織を、学校全体でつくる。</td></tr>
<tr><td>☆　たくましい心身　　（山本祐）
・基本的な生活習慣を身に付けた児童
・体力の向上を図り、健康で安全な生活ができる児童</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">・小学生は遊びの中で、体力をつけ、仲間との関わり合い方を学んでいく。橘小学校には、自然に触れ合うことができる広々としたグラウンドがある。体力をつけることは学力向上にもつながるので、もっと時間を見つけて遊びの時間作って欲しい。オープンスペースの弱点は、物が散らかる点にある。空き教室を上手に使って欲しいと思う。
・前期アンケート結果から「楽しく学校に通っている」が児童の2.3%が「そう思わない」となっている。なぜそう思わないのかを追求する必要がある。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
１年生の始めから時間を意識して生活ができるように習慣づけをしていくことができた。学年が上がるに応じて時間を意識した指導を行うことができた。　友達とのかかわり方についてみんなで考える機会をもつなど、お互いが気持ちよく過ごせるようにする指導を行ってきた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
自分で時間を意識して生活したり、整理整頓をしたりできるようにすることを意識して各学年に応じた指導をしていく。</td></tr>
</table>

重点目標 （林） （山本祐） （二村）	☆　豊かな心　　（二村） ・相手の身になって考え・行動できる児童 ・協力して温かな人間関係を作ることのできる児童 ・感動する心をもった児童 【本年度の取り組み】 生徒指導の反省（２か月に１度）でよい児童の表れを募集した。それらのまとめを職打ちで紹介し、教員への共通理解を図り、さらに児童が成長するように促した。	3	3	・友達のよいところは、一番身近にいる子供たちがよくわかっているので、お互いを称えあうのは、子供たちにとって、安心した環境下で生活ができることになると感じる。願わくは、地域貢献、社会貢献などもっと視点を広げて考え行動できる子供たちが育っていけると良いと思う。 ・学校全体に穏やかな、温かい空気が流れているのを感じることができた。家庭でも学校でも心の安定が保障されているのだと思った。 ・異年齢と自然な関わりの中で、思いやりの心が育っていることが感じ取れた。 ・良い表われを認め、強化していくことで自己肯定感、自己有用感につながる良い取り組みだと思う。
	【来年度の改善策】 来年度も児童のよい表れやがんばりを認め、褒める機会を増やすようにし、自己肯定感を強くする。 行事等で個人や学年の目標を立てて取り組み、振り返りを行うことで自分の成長を実感できるようにする。			

２　指導部に関すること

評価項目		自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
生徒指導 （二村）	☆　生徒指導を学習指導、生活指導、特活指導の三領域で行う。 ☆　生徒指導主任は学習指導、生活指導、特活指導の三領域会を統括する。 ☆　生徒指導主任は学校のコロナ対応を担う。 ☆　生徒指導主任はS職員会議(校内支援会議)を運営する。 【本年度の取り組み】 職打ちで生徒指導の反省において、児童のよい表れや共通理解を図りたいこと等を職員で共有することができた。S職員会議では該当児童の実態を担任が伝えたり、カウンセラーからの助言をいただいたりして、その後の指導に役立てることができた。	3	4	・生徒指導主任の仕事内容を明確化し、各領域をリードするためには、担任をはずれて全体を見ることができるようにする必要もあるかもしれない。橘小学校には、様々な子供たちが入学してくるので、一人一人の良さが生かされるような丁寧な指導を今後も続けて欲しい。 ・安定している家庭が多いとは思うが、その中でも外からはなかなか見えない困難があるかもしれない。子供の背景までとらえた生徒指導は、どんな学校でも不可欠である。 ・取組からも、きめ細やかな生徒指導をされていることが感じ取れた。 ・良い表われは共有すべきこと（マイナス面の方が共有されがち）として共通理解し指導をしていくことが大事だと思う。
	コロナ対応については５類への移行に伴い、今までのように細かい対応は必要ない。(感染の拡大があれば対応する) 来年度も今年度と同様に、教職員が児童のよい表れや実態等の共通理解を図り、児童の健やかな成長につながるように支援する。			

<table>
<tr><td rowspan="4">学習指導
（林）</td><td>☆　学習指導　　学びの基本をしっかりと身に付ける。「聴いて・話して・つなげよう」
・必要な内容を正しく聴き取る。
・　話して（表現して）、つなげる。
・学力差をなくす。
・家庭学習の習慣づけと質の向上
・学力調査（全国学力・学習調査）の分析を学校から家庭に伝達する。
【本年度の取り組み】
・各学年、児童の実態に合わせて「聴く」指導を継続的に行うことができた。それに伴い、ただ発信するだけではなく、話題に則した発信ができるようになってきた。
・学力調査（全国学力・学習調査）の分析を教職員と家庭に伝達できた。</td><td>4</td><td>4</td><td>・正しく聴くことができる習慣を小学校時代から身につければ、自分自身の思考が深まるだろう。ICTを有効に活用できれば、個別最適な学びももっと進むと思う。タブレットも家庭学習で必要不可欠であり、保護者の理解も進むのではないかと思う。
・一人ひとりの理解状況や能力・適正に合わせ柔軟な指導を検討してほしい。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・「聴く」指導を継続し、「つなげる」を今年度以上に意識したい。
・家庭学習の習慣づけと質の向上（個別最適化・学力差を少なくする）のために、各学年の判断でタブレットの持ち帰りを進める。
・子供の能力をより高めるために、スクール・サポート・スタッフの活用方法を推進する。
・今年度同様、4年生で週1回チャレ国とチャレ算の時間を確保する。</td></tr>
<tr><td>☆　図書館指導　学校図書館への期待感をもたせ、良い図書館利用者の基礎を育てる。
「行きたい図書館、使える図書館」　　「つながる読書、つなげる読書」
・本を読むことの楽しさを知り読書を習慣化する。
・図書館情報を活用し、自分の課題や疑問を解決する力を身に付ける。
【本年度の取り組み】
・例年通り、計画的に図書館指導や様々な企画を実施し、成果をあげることができた。
・今年度から始まった「ゆったり図書館」が順調に運用できた。</td><td>4</td><td>4</td><td>・橘小学校の図書館利用度の割合が高く、日頃から読書習慣がついているのは、学校司書の存在がとても大きい。子供たちが飛びつくような企画運営は、どの学校でもできるわけではない。ゆったり図書館は、空き教室を上手く使った例になった。橘小学校の読書指導は、募集活動の大きな目玉になるはず。募集のＰＲにして欲しいと思う。また今後も小学校には専属の図書館司書が必要であるということを伝えて欲しい。
・図書環境の取組には、いつも感動している。読書好きな児童が育つことが主体的に学びに取り組む力につながっていると感じた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・「ゆったり図書館」のよりよい利活用について工夫する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生活指導
（山本祐）</td><td>☆　生活指導　　基本的な生活習慣が当たり前にできる。
・笑顔（橘スマイル）で挨拶する。
・校内では静かに歩く。
・黙って集合、黙って解散する。
・校内美化に努める。
・丁寧な言葉遣いができる。
【本年度の取り組み】
朝礼や移動教室など、集団で移動をする際は黙って移動ができる。
掃除を丁寧にでき、校内美化に努めることができる子が多い。
落ち着いて生活ができるよう、時間の余裕を持って生活ができるように指導した。</td><td>3</td><td>4</td><td>・先日、４年生が常葉中学校を訪問してくれたが、あいさつ、聞く姿勢、礼儀作法がとてもしっかりしていて関心した。日頃の指導が、外部に出たときこそ現れると感じた。場面においてふさわしい態度がとれるのは日々の指導の賜物だと感じる。
・前期アンケート結果から「あいさつがよくできる」が、児童と教員とで差がある。黙って移動、丁寧な清掃等とともに、言われるからではなく、なぜ大切なのかを指導していくことが大切だと思う。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
休み時間、落ち着いた過ごし方ができるように、どのような過ごし方がふさわしいかを指導していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="6">生活指導
（山本祐）</td><td>☆　交通安全・防災指導　どこにいても自分の身は自分で守れるように行動できる態度と能力を身に付ける。
・交通安全指導員の協力の下、交通安全教室を実施する。
・スクールバス、ＪＲ、徒歩、送迎による登下校の指導を行う。
・火災、地震の避難訓練を行い災害時に備える。
・不審者対応訓練及びそれに関する研修を行う。</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・スクールバスの安全面は特に気をつかう点だと思う。送迎の車も多い中で、先生方の苦労は大変だと思う。できるところはアウトソーシングしてもよいのかもしれない。小学生は、訓練をたくさんしておけば、いざという時に動くことができる。さまざまなリスクを想定して日頃から訓練を積む機会を作って欲しい。
・登校時やスクールバスを待つ姿を見かけるが、安全に気を付ける指導が身についている。
・不審者への対応訓練は、様々な想定を考え、実施し、職員誰もが対応できるようにしなくてはならない。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
登下校のルールを上の学年の子が、下の学年の子に上手に伝える習慣付けができた。
緊急地震速報の校内放送システムを導入した。
児童向け不審者対応訓練だけでなく、教員向けの訓練も行うことができた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
非常時に、児童や保護者と連携ができるようにシステムを充実させていく。</td></tr>
<tr><td>☆　給食指導
・食事に関する望ましい習慣を身に付ける。
・会食をして望ましいマナーを身に付ける。
・食事や栄養について正しい理解を深める。</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・偏食が多い児童が増えているのは気になるが、子どもの特性にも関わることなので、無理に食べさせることも難しいかと思う。食育指導は、保護者も巻き込んでぜひ実施できるとよい。
・食育は、学校給食だけではなかなか深まらない面がある。（基本、親が嫌いな食べ物は食卓に並びませんから。）
家庭を巻き込んだ食育学習を進めることができたらよいと思う。
・食は全ての活動の源。成長期であり、健康維持のためにも、家庭と連携して行っていく必要がある。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
コロナやインフルエンザの感染状況を見ながら、会食の仕方を工夫したり、マナーを守って給食を行った。
給食委員会の児童が主体的になって全校に食事の大切さを伝える機会をもつことができた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
食べ物の好き嫌い、偏食が目立ってきているので、食育指導を行っていくことや、家庭へも呼びかけをしていく。</td></tr>
<tr><td>☆　清掃指導
・正しい清掃の仕方を身に付ける。
・黙って働くことを通して学校をきれいにし、大切に使おうという心を育む。
・師弟同行に努める。</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・橘小学校の子供たちは、よく掃除をしてくれる。みんなの生活する場所は、自分たちできれいにしようという意識が高い表れである。ただ、先日伺ったときに感じたのは、学校全体に雑然とした雰囲気があったこと。整理整頓が行き届いていないこと。新しい校舎が当面無理な場合には、今あるものをきちんと整えていくこと、できる範囲で快適に過ごせるように環境を整備することが必要だと感じる。
・清潔感のある環境で、整理整頓されており、快適な学習環境の整備がされていた。その環境からも児童が落ち着いて生活していることが伝わった。
・生活指導同様に見届けがなくても自分たちのこととして進められるとよい。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
掃除を黙って丁寧に取り組むことを徹底できるように指導した。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">生活指導
（山本祐）</td><td colspan="4">【来年度の改善策】
掃除場所を精選して児童が取り組みやすく、教員が見届けをしやすくしていく。</td></tr>
<tr><td>☆　保健指導　　自分の身体に関心をもち，心身共に健康な身体をつくる。
・規則正しい生活をする。
・外で元気に遊ぶ。
・身体・衣類の清潔に努める。
・身体と心のバランスについて学ぶ。
【本年度の取り組み】
朝礼で保健指導をすることで学級での指導につなげることができた。
外で元気に遊ぶことができる子が多くなってきた。
清潔検査を各学級で毎週行い、注意や呼びかけを行うことができた。</td><td>4</td><td>4</td><td>・コロナも落ち着き、本来の生活が戻ってきた中で、健康管理が自分でできるように、日々指導ができるとよい。また、心のバランスをどう保つか、外部の方から講演会に来てもらって保護者とともに考える機会を参観会などに作っても良いかと思う。
・戸外で十分に体を動かすことで、その後の学習にもよい影響が出ているというデータもある。静と動のバランスを取り続けていってほしい。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
朝礼や学級で保健指導を行っていきながら、家庭へも協力を呼びかける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">特別活動
（渥美）</td><td>☆　特別活動　　楽しい学校を主体的につくる。
・児童の取り組みを通して、主体性を育む。
・「ありがとう」や「思いやり」の気持ちを育てる。
・クラス、学校全体の団結力を高めることで豊かな人間関係をつくる。
【本年度の取り組み】
児童会の児童を中心に前期は「伝えて察して三方よし」後期は「みんな友達明るい橘」というスローガンを自分達で作り、活動していた。感謝の気持ちを伝えたり、仲を深めたりできるようなイベントも考え、実施することができた。
児童集会の中の橘っ子大会に多くのクラスが参加し、クラスの中を深めることができた。
ふれあいまつりは、PTA本部役員、評議員、サポーターズの協力があり、児童が楽しむ行事になった。</td><td>4</td><td>4</td><td>・児童会活動がとても活発であることは、児童主体の理想的な学校運営だと思う。「三方よし」はだれにでも理解ができるわかりやすい合言葉である。PTA活動もサポーターズの協力も増え、活発になったと聞いている。保護者の協力は絶対に必要だし、いっしょに取り組むことで、すべてがうまくまわると思う。
・指導がなくても自分たちが主体となり企画、運営できたことは良い。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
ふれあいまつりについてはPTA本部の方々と連絡を取り合っていく。
児童数と教員数の減少により、掲示委員会を減らし、クラブの数を増設する。</td></tr>
</table>

３　特色ある教育に関すること

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>自己評価</th><th>学校関係者評価</th><th>学校関係者委員会の意見</th></tr>
<tr><td rowspan="3">英　語
（望月）</td><td>☆　英語に浸り、英語を楽しく使いながら、聞く、話す、読む、書く力をバランスよく各学年に応じ身に付ける。
・月ごとのテーマに基づいたコミュニケーション活動。
・フォニックスを取り入れた文字と音の学習。
・イギリスの絵本を使ったリーディング。</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・低学年から英語に浸る環境にあるのは、私学ならではの特色の１つである。保護者にも児童にも今自分がどんな力がついたのか、何が苦手なのか、何をしなければいけないのか、わかるようにすることは必要だ。英検だけでなく、スピーチコンテストや姉妹校とのやりとりでの日常的な英語力をつける機会を設けるなど、もっとできることがあるような気がする。
・児童一人ひとりが、興味や関心をもって自分から学ぼうとする力を発揮している印象がある。私学の強みだと感じるので、引き続き親しみのある指導を展開していくことを期待している。
・楽しく活動に取り組むことで、もっと～したい、学びたいにつながったと思う。
・ネイティブスピーカーとの授業はとても楽しく、価値あるものだ。また、ブリティッシュ・ヒルズでの活動も、なかなかできないことであり、子供たちにとって有効であると思う。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
・各学年とも、活動に一生懸命取り組むことができた。また、楽しく活動に取り組む力がついた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・児童が自分たちで英語を使いたくなる場を設定していく。
・１～６年生のカリキュラムを明確にし、到達度がわかるようにしていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オーケストラ
（池上）</td><td>☆　感動するしなやかな心を育てる。
・各学年に応じた演奏技術を身に付け，合奏する楽しさを味わう。
・オーケストラ学習が，児童同士の良好な人間関係づくりに寄与する。</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">5</td><td rowspan="2">・先日のテレビ放映にもあったが、全校児童でオーケストラ学習を行っている学校は橘小学校だけ。しかもそのレベルの高さは目を見張るものがある。オケ科の先生方の御指導のすばらしさを感じる。今後、児童数が減っていく中でのオーケストラの在り方、演奏の組み方なども考えていく必要がある。
・オーケストラ学習発表会に伺ったが、広い会場に響き渡る音色がとても素敵だった。児童が自信をもってステージで演奏している姿からもオーケストラ学習を継続し行うことからの育つ力の大きさを実感した。
・発表ありきではなく、感性を育てていく。技術を身に付けることも大事だが、音楽が好き、みんなで創り上げた喜びを感じられるようにしていってほしい。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
昨年度に比べ、楽器の破損が減り、落ち着いた授業を行うことができた。コーディネーターと学年教員が連絡を取り合い、児童の身上を考慮した楽器発表（４年）をしたり、見通しを持って計画的に授業を進めることができた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
発表会の延期により１月の実施となりメリットもあったが、２月以降の授業に影響も出る。来年度以降も１２月実施としたい。発表会に向け、各学年の技能・特徴にあった曲を選曲し、ゆとりのある時間配分で指導していく。指導者も児童も落ち着いて授業に取り組むことで、楽器の破損も減らしていきたい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">情　報
（瀧）</td><td>☆　各教科等で活用できる情報活用技術等を身に付ける。
・各学年に応じた情報活用技術、情報倫理、プレゼンテーション能力を身に付ける。
・ミニロボやマイクロビット等を使用してプログラミング教育を行う。
【本年度の取り組み】
各学年では発表会という形で、プログラミング作品のプレゼンを行い、力を身につけようとしている。ミニロボ、ビスケットやスクラッチを使ってプログラミング教育を行うことができた。今年度は、ドコモ未来ラボプログラミングコンテストに応募している。</td><td>4</td><td>4</td><td>・タブレットの扱いが粗雑になってきたのは問題ではあるが、それだけ当たり前の物になりつつあるということ。企業の協力を得て、コンテストなどに参加するのはとてもよいこと。外部への発信をどんどんすることで、募集にもつながると感じる。
・系統的な学びにより、ICT端末が文房具のように使うことのできる子供の育成をしてほしい。デジタルシチズンシップ教育と言われるように、デジタルと積極的にかかわり、有効に使えるようになればよいと思う。
・タブレットを家庭に持ち帰ることも進めていくことだが、タブレットを含め、メディアとのつきあい方については、指導を引き続き行ってほしい。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
今年度同様、授業だけでなく、企業に協力をいただきプログラミング教育を実施していく。
各学年が情報の時間に限らず、普段の学習でタブレットを使用し、文房具として定着しつつある。半面、扱いが粗雑になりつつあり破損もあったため、再度指導をする。情報モラル教育は引き続き行い、トラブルのない環境にしていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">書写・書道
（加藤）</td><td>☆　書写で日本語の美しさに触れる。
・各学年に応じた書写技術を身に付け，日本文化の素晴らしさを体得することができる。
【本年度の取り組み】
各学年、準備や片付けを見通しを持って行う意識づけをした。それにより書く時間が増え一人一人の書写技術の向上につながった。また、全国書画展覧会に4年生以上全員が出品した。目標を持って書き、鑑賞しあって作品を選ぶという、よさを認め合う授業づくりを行った。</td><td>4</td><td>4</td><td>・書家の先生からの専門的な指導が受けられるというのはとても恵まれた環境にあると思う。橘小の子供たちは、毎日の日記をとおして字もとてもきれいに丁寧に書ける。書道についても展覧会に出品できることが励みになれば、積極的に参加してもよいかと思う。
・掲示してある書道からも丁寧な行き届いた指導がされていることが伝わる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・全国書画展覧会に継続して出品する。・普段書く字の美しさも大切であることに気づかせるため、３年生から６年生までの硬筆の時間体系化して毛筆で学んだことを硬筆に生かせるようにする。</td></tr>
</table>

４　その他の重点項目について

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>自己評価</th><th>学校関係者評価</th><th>学校関係者委員会の意見</th></tr>
<tr><td rowspan="3">コロナ対応
（二村）</td><td>☆　学校の新しい生活様式にそった生活ができる。
・マスク着用
・手指の消毒
・３密を避ける</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・継続して、うがい、手洗い、換気などは行えるとよい。
・マスクを外すことに抵抗のある高学年女子等はいないだろうか。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
５類移行に伴いマスクの着用は個人の判断となった。全校集会でマスクの着用など感染予防対策について話をして児童に共通理解を図った。バスや人混みの多い場所では「マスクを推奨する」という形で呼びかけを行った。個々で考え判断して行動できていた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】来年度は評価項目より削除する。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">コロナ対応
（二村）</td><td>☆　各教科ごと感染対策をとって授業を行う。
・グループ、ペア活動は注意して行う。
・家庭科、音楽、理科、オーケストラ学習は注意して行う。</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
５月から新型コロナウィルス感染症が5類に移行されたのに伴い、各教科での対応の指針を提示した。（５月１７日）基本、元どおりの生活に戻り、感染防止に全職員で取り組んだ。その後は感染拡大などは無かったため、大きな変更は無く取り組めた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】来年度は評価項目より削除する。</td></tr>
<tr><td>☆　各行事、体験活動等は感染対策をとって行う。
・一斉に全校児童が集まらない。
・宿泊を伴う体験活動は宿泊先としっかり連絡を取り安全を確認して行う。</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・いつの時代も感染症とは上手に付き合っていくことが求められる。場に応じた対応のできる子にしていきたい。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
５月に５類に移行されたので全活動が元通りに戻った。朝礼や児童集会等においても全校児童が集まり、歌も歌えるようになった。宿泊についても各施設の方針に従い、安全に留意しながら活動が行えた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】来年度は評価項目より削除する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="6">研　修
（田原）</td><td>☆　研究主題「自ら学び、共に追究する子の育成～『そうぞう』する子をめざして～」をめざし組織的な研究を行う。
・研究推進部が研究の方向性を出し研究全体の推進役を担う。
・研究教科部が授業研究の推進役になる。
・令和５年度に授業研究発表会を行う。</td><td rowspan="2">5</td><td rowspan="2">5</td><td rowspan="2">・１年間をとおして、あるいは３年計画で研修テーマに沿って、大学との連携を深めながら研修を進めていくのは、教育学部の附属校ならではだと感じる。熱心な先生方が橘小学校の財産だと思う。
・常に学び続ける教員集団であってほしい。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
・定期的に部会を開き、計画的に研究の方針や研究会の運営案を提案することができた。
・各研究教科部が大学の助言講師の先生と連絡をとり、指導をいただくことで研究を深め、その成果を授業研究会で発信することができた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・本年度のふり返りを行ったうえで、3年計画の3年目のまとめを行うと同時に、平成7年度の研修を見据えた組織やテーマづくりを行っていく。（5教科の教科研修を継続するのか等）</td></tr>
<tr><td>☆　教育学部と共同で研究を深める。
・研究教科部が担当の大学教員と共に研究を行う。</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・お互いに忙しい中でのやりとりが難しいかと思うが、オンラインをうまく使ったりすることもできるかと思う。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
・助言講師の先生と連絡をとりながら、研究を進め研究発表することができた。しかし、講師の先生方との時間調節の難しさや共通理解を図る点ではやや課題が残った。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
・来年度も引き続き、本年度の先生方にお願いしながら平成7年度に向けた検討も行っていく。場合によっては、指導助言の先生を探していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">教員の資質
向上
（海野）</td><td>☆　より志の高い教師を目指す。
☆　ＩＣＴ活用の推進を目指す。
☆　支援を要する児童への対応を充実する。</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="2">・忙しい中であるが外部研修に1年に1回は最低参加をするなどし、それぞれのスキルアップを目指して欲しい。刺激をもらうことでよりよい教育を施すことが可能になる。
・県内のICT活用では吉田町の取り組みが抜き出ているように思う。個別最適化を含め、とても勉強になる。
・先進校への視察研修をもとに、改善した取組に私学としての魅力を感じる。業務の効率化に際しては、更なる可能性も期待できる。
・ICTを活用しての授業に対して、事前準備、研究がなされている。業務の効率化につながるよう今後も取り組んでほしい。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
先進校の視察や外部の研修に積極的に参加するとともに、関連書籍等を購入し教職員図書として整備した。ICTについても、授業でのロイロノートの活用の他、写真販売、アンケートや各種申込み等で新たにICTを活用し、業務の効率化を進めることができた。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
より多くの教員が先進校の視察や外部の研修に参加する。
新たに導入される校務システムを活用し、業務の効率化を図る。
支援を要する児童に対しては情報をきちんと共有し、組織的に対応する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">児童募集
（海野）</td><td>☆　系列の両園との交流活動や保護者参観会等へのはたらきかけにより募集の拡大を図る。
☆　従来の方法とともにオンラインやホームページなどＩＣＴを活用した募集を展開する。</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">・児童募集は少子化の中、ますます大変になるかと思う。橘小学校は、とにかく1度足を運んでもらえれば、その教育力の素晴らしさを感じ取ってもらえるはず。ロコミ（保護者）をうまく利用する、外部へ取組みの発信（TV　新聞　コンクール）塾、習い事へのアピール、動画での発信などいろいろな工夫があるかと思う。若手を中心に広報部会の活躍を期待している。
・私学を選択する保護者は、何を求めているのかを考えたときに、それなりの大学に推薦で行かせたい、という思いがあるのではないかと思う。サレジオが人気になったのは、その部分を強烈にアピールしてきたからではないだろうか。とすれば、小学校単体での集客は難しく、常葉全体としてどうしていくのかが課題だと思う。系列大学はもちろん、他大学の選択肢もたくさんあることを宣伝していくこと。系列中・高での特色ある取り組みについても宣伝していくことが必要ではないだろうか。
・保護者の満足度の高さからも、充分に橘小学校の魅力は伝わると思う。本園でも早い段階から興味がつながるように協力させていただきたいと考えている。</td></tr>
<tr><td>【本年度の取り組み】
系列の園との交流は、1年部を中心としてそれぞれ交流会を行った。ICTを活用した募集活動は、公式Instagramを開設し、情報発信を充実させることができた。また、全体として募集活動の年間スケジュールを見直すとともに、広報部会を新設し、募集活動に取り組んだ。</td></tr>
<tr><td colspan="4">【来年度の改善策】
広報部会を充実させ、定期的に会議を行う。
ホームページを整備するとともに、Instagramとの役割の違いを明確にし、よりニーズに合った情報提供を行う。
説明会の内容を見直しリピーターを増やすとともに、それを出願につなげる工夫を検討する。</td></tr>
</table>